

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3271300133
法人名	有限会社 クオリティーライフ
事業所名	グループホーム よこたの郷
所在地 (電話番号)	仁多郡奥出雲町下横田27-1 (電話) 0854-52-9877

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成19年11月2日	評価確定日	平成19年11月14日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 14 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 9 人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設	<input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築	<input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り			
	3 階建ての	3 階 ~	3 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 150,000 円	<input type="radio"/> 有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,166 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	83 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高松歯科医院、永生クリニック、奥出雲町立奥出雲病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「出雲神話の地」として知られる奥出雲町横田は、中国山地のほぼ真ん中に位置し、なだらかで美しい山並みに囲まれている。ホームからもこの美しい山並みを眺めることができ、自然を身近に感じることができる。毎日の食事にも、この地でとれた米や野菜を使用し、「食」を生活の楽しみの一つとして考え提供している。入居者が日々自由に過ごせるよう、職員はそれぞれに合わせた支援を行っている。また、地域住民とできるだけ多くの触れ合いが持てるよう、地域の催し物へ参加したり、地元ボランティア団体の受け入れ、合同の昼食会など、地域密着型サービスに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で積極的な取り組みが期待された中で、定期的な会議の開催、地域交流という点では改善されているが、そのほかの項目について取り組んだ成果が確認できなかった。グループホームとは何かという原点に戻り、今回の評価を含め、改善に向けた取り組みがなされる体制づくりが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、ホームの現状を真摯に受け止め、ほぼすべての項目で課題を認識し、取り組む姿勢がうかがえる。この自己評価を、ホームの質の向上に向けた過程の一つとして捉え、積極的な活用、そして取り組みがなされるよう期待する。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年9月に、行政関係、民生委員、自治会長、入居者及び家族等をメンバーとした会議を初めて開催し、ホームの運営状況、活動状況等が報告された。次回の会議では外部評価結果の報告が予定されている。今後、この会議を基に、地域住民への啓発、行政との連携の強化など、ホームの質の向上に向けた取り組みを期待する。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等の来訪時には、管理者等が話を聞くよう取組まれ、現在は苦情や不満などは出ていない。ただ、その現状に流されているのか、意見箱の設置や第三者委員の選任も行われていない等、積極的な取り組みはなされていない。今後は、より質の高いケアを行うためにも、家族等との関係の構築や意見を聞きだす機会を設けるなどし、家族等からの意見を運営に反映されることを期待する。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>建物の構造上、グループホーム入口が3階に位置し、地元の方が立ち寄りやすいホームとは言えないため、ホームとしては地域住民とふれあいが持てるよう、1階玄関外にソファを置くなどの工夫をし、近隣住民への話しかけやだんらん、地域の祭りに出かけるなど対応している。また、地元ボランティアの受け入れも行うなど、より地域とのつながりが密になるよう、取り組んでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	旧制度時に定められた理念であるため、グループホームの基本方針である「家庭的な環境」については定められているが、制度改正後に加えられた「地域住民との交流の下で」という部分については定められていない。	○	「地域住民との交流の下で」という基本方針を踏まえ、理念の改正作業中である。早期に新しい理念が定められることが望まれる。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送り、職員会議等で話し合いをするなど、共有に向けた取り組みは行われているものの、全職員が把握するまでには至っていない。	○	新しい理念の制定後、利用者や家族等への啓発、職員間での共有がなされることを期待する。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入はしていないが、地域のボランティア団体の受け入れ、交流会、地域の催し物への参加等、積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意味はおおむね理解しているが、前回の評価を確認していない職員がいるなど、評価結果を基とし改善するという体制はとられていない。	○	外部評価はホームの質の向上を目指す上で、一つの有効策である。今回の評価を基とし、ホームとしても運営を含め全体的に議論し、活用されることを期待する。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地元自治会、家族代表等をメンバーとし、ホームの状況報告を行うなどしている。今後もこの会議を、質の向上を目指す一つの機会として取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者から相談を持ちかけることはなく、ケアマネジャーに任せっきりの状態であり、また協議内容等も確認できていない面が見られた。	○	ホームを運営していく上で、市町村の役割は大きいものがある。気軽に相談できる体制を構築するなど、ホームの質の向上を目指す上での一つの有効的手段として捉え、活用されるよう期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	普段の生活風景、行事の際の様子などの写真を同封し送付するなどして行われているが、定期的な報告がなされていない。	○	写真を同封することは、大変よくわかる良いやり方である。ただ定期的ではなく、事業所側の都合になっている部分があるので、これを改善し取組まれることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱も設置しておらず、第三者委員も選任されていない。家族の意見をくみ取ろうとする積極的な取り組みがなされていない。	○	家族等の意見は、ホームの質を向上させるうえで重要なものである。「意見がない」ということに満足せず、その意見をより多く取り込む体制づくりが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	大量の離職者が出るなど、入居者への影響は避けられない状況にある。また、職員側も入居者支援よりも、経営体制について目が向きがちであり、本来の業務に専念できていない部分が強く感じられた。	○	国の定める配置基準は、あくまでも最低ラインであり、それぞれのホームの事情により、必要人数が算出される場所であると思われる。まず、入居者を守るという点を最優先に考えられ、早期に対処がなされるよう期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、積極的に参加するよう取り組みがなされているが、その報告を含めた、職場内研修は開催されず、支援技術等の共有化が図られていない。	○	職員のレベルアップを目指す上で、職場内研修も重要である。ホームとしても、内部研修を開催を積極的に実施し、更なる室の向上を目標とされるよう期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会に加入し、研修等への参加を行い、サービスの質の向上を目指してはいる。ただ、職員体制により他事業所との交流等は実施できていない。	○	研修会で得てくるものを具体的に示すなど、ただ単に参加するのではなく、有効的に活用されることを期待する。職員数の関係もあることは解るが、ホームの総合的な向上を目指す上で、より積極的に活用されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員による家庭訪問や、事業所の見学などない、徐々に馴染める取り組みがなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一部の入居者に対する言葉掛けに、乱暴な声掛けがなされるなど、共に過ごし、支え合うという姿勢は感じられない面が見られた。	○	いくら認知があるとはいえ、入居者はやはり人生の先輩として捉えなければならない。ホームとしても再考され、個々を尊重した支援がなされるよう期待する。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ではなく、運営者に対する不満が強く、本来の目的である「利用者本位」というものが、優先されていない面が確認できた。	○	本来の業務は何なのかを再考され、利用者本位の支援がなされるよう期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一部の入居者に対する計画は作成されているものの、全利用者の計画が作成されていない。また職員への周知、家族等へ説明もされてなく、承認も得られていない。	○	業務の都合上、計画が後追いになるのは、わかる部分もあるが、本来は計画を基とした支援が行われるべきである。また、チームケアという点からも、それを実践する職員への周知、家族への説明がなされるよう改善されることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の状況に応じて、支援方法を変えることは実践されているが、見直した支援方法の文書化作業は行われていない。	○	支援をする上で、計画書は基本となるべきものであり、計画書というものはどういふものなのかを再考し、早急に改善されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。また、本人の希望により、併設するデイサービスで過ごすなどの対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、本人・家族等の希望に沿い、かかりつけ医でも医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	できるかぎり本人や家族等の希望に沿うよう、関係者と話し合い対応している。また、ミーティング等により方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議の際など、プライバシーについての話し合いはなされているものの、調査時にプライバシーを損ねるような声かけ、対応等が見られた。	○	認知症の方に対する支援方法も含め、ホームとしても支援に対する対応方法を再考し、入居者を尊重した声かけ、対応等がなされるよう、改善が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースではなく、職員側の都合でケアが提供されている場面が見られた。	○	グループホームというものを再認識され、あくまでも入居者を優先した支援体制が構築されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれの状況に合わせ、刻み食や食事量の制限等対応している。また、入居者と共に準備、食事、片付けが実施されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日対応しており、それぞれの希望に合わせて実施されている。時間帯についても、本人の希望で入浴を実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、畑仕事や家事で力を発揮できるよう役割を見出している。また、同法人内のデイサービスの行事に参加したり、遠くへの外出等、楽しみごと、気晴らしの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望者も多く、それぞれに合わせて対応している。また、単独でホーム近辺を散歩する利用者もいるなど、利用者の意思を尊重し支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、入居者、家族等とも自由に出入りができる。また、外出傾向者など入居者個々の生活パターンを把握し、安全面での配慮を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得、避難訓練を行う計画はあるものの、実施されていない状況である。また緊急対応マニュアルが整備されていない。	○	非常時に対応できるよう訓練を実施するとともに、緊急に関するマニュアルを整備され、職員への周知が図られるよう、改善が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個々にチェックし把握している。利用者それぞれの状態や咀嚼能力に合わせ柔軟に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、テーブルやソファが置かれ、家庭的な雰囲気を感じることができたが、ホール入口から、尿臭を感じ、共用トイレも同様であるなど、不快に感じる面もあった。	○	換気扇の配置など、構造上の問題もあるかと思うが、ホームとして再考し、たとえば定期的、または随時窓を全開にして換気を行うなど、改善されることが望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの品が置かれ、家庭的な雰囲気を有し、それぞれにあった居室環境作りがなされている。ただ、ポータブルトイレを使用する方の居室の臭いが気になった。	○	共有スペースと同様、改善されることが望まれる。